

地域包括ケア推進のための 看看連携への取り組み

～三職能事例検討会から導き出された結果より～



地域包括ケアシステムの構築においては、自助・共助・互助・公助をつなぎあわせる役割が必要である。

我々看護職（保健師・助産師・看護師）は、事例検討会をおして、お互いの領域の役割や機能を共有し、各職能ができること・期待されていることを抽出しリーフレットとしてまとめました。

このリーフレットは、職域の異なる看護職や多職種が参集し、関係者間のネットワークづくりの構築に活用して頂きたいと考えます。

また、今後は関係医療機関や関係団体にもご理解を頂きながら、さらに看護職のつながりから、組織間同士のつながりへと発展させていきたいと考えております。



公益社団法人高知県看護協会
地域包括ケア検討委員会

2018年2月作成

★事例検討会の実施について

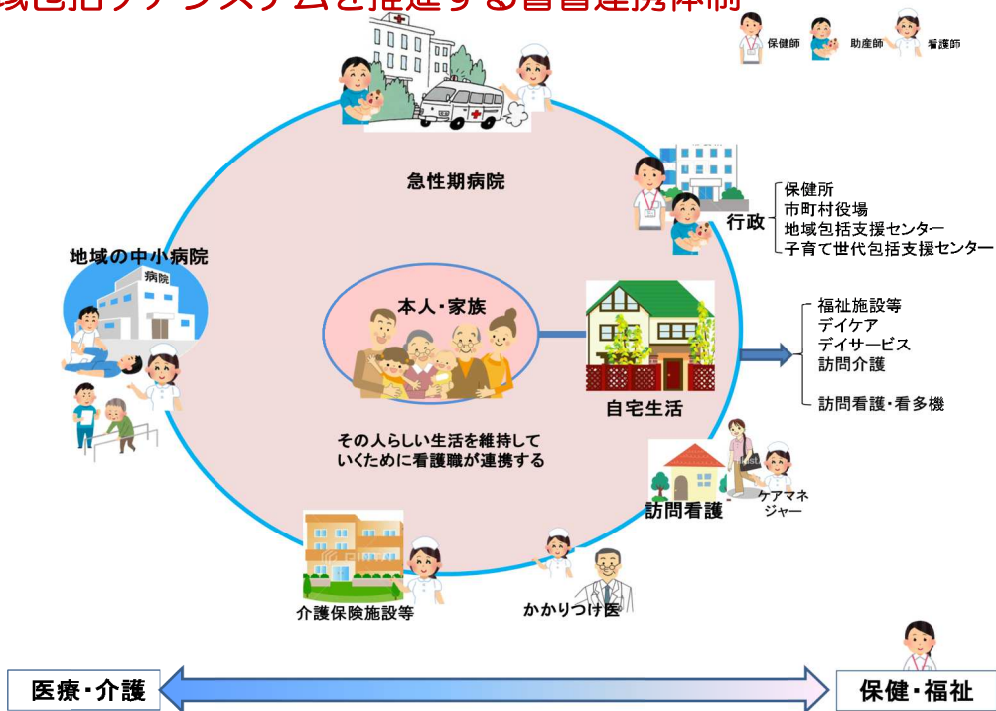
開催に向けて運営委員は、以下のことを話し合しましょう！
 目的、事例提供者、関係機関からの参集、会場確保、ファシリテーター確保他
 事例フォーマット、記録用紙、アンケート用紙等 高知県看護協会HP参照できます。

- 【事例検討会の実際】

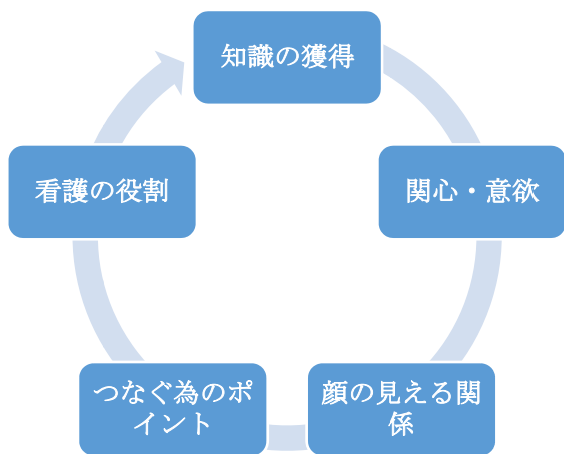
 - ・目的を共有しましょう
 - ・現状はどうなっているのでしょうか
 - ・課題を明確にしましょう
 - ・地域の資源を把握しましょう
 - ・顔の見える関係をつくりましょう
 - ・情報共有をしましょう

★平成 29 年度三職能事例検討会から導き出された結果

point! 地域包括ケアシステムを推進する看看連携体制



point! 三職能事例検討会から得られた気づき (記述アンケートの分析より)



カテゴリー	サブカテゴリー
得の知	事例検討会に参加して知識が深まった
関心・意欲	事例検討会で得た知識を退院カンファレンスに活用したい
	自施設でも地域との連携に取り組みたい
	今後は地域包括支援センターをうまく活用していきたい
顔が見える関係	顔の見える関係から更に協働関係となるのが大切
	連携・ネットワークを動かしていくのが難しい
	ケースカンファレンスでの情報共有が大切
	多職種との情報共有が大切
	多職種の違いや役割を理解する姿勢が大切
	異なる場で働く看護職の実践や意見を知ることが大切
	看護職が顔が見える関係をつくるのが大切
看護専門職は地域で調整役割を果たすことが大切	
つなぐためのポイント	チームで支える意味を考えることが大切
	対象者の強みや生きがいを探ることが大切である
	課題解決のためには、地域のどこに働きかけるのか考えることが大切
	看護職の専門分野、得意分野を活かした連携が必要
	様々な場や地域で働く看護職との連携や交流が必要
看護の役割	複数の社会保障制度を調整することが重要
	地域ネットワークシステムの活用促進が重要
	在宅ケアサービスを学び活用する必要がある
	現状の書類上での連携は難しい、改善が必要
看護の役割	看護師には病気だけではなく生活を支援する重要な役割がある
	事例検討会を通して看護の役割を改めて考えた
	看護職には、本人・家族の意向の把握、退院準備、情報収集や発信をする役割がある

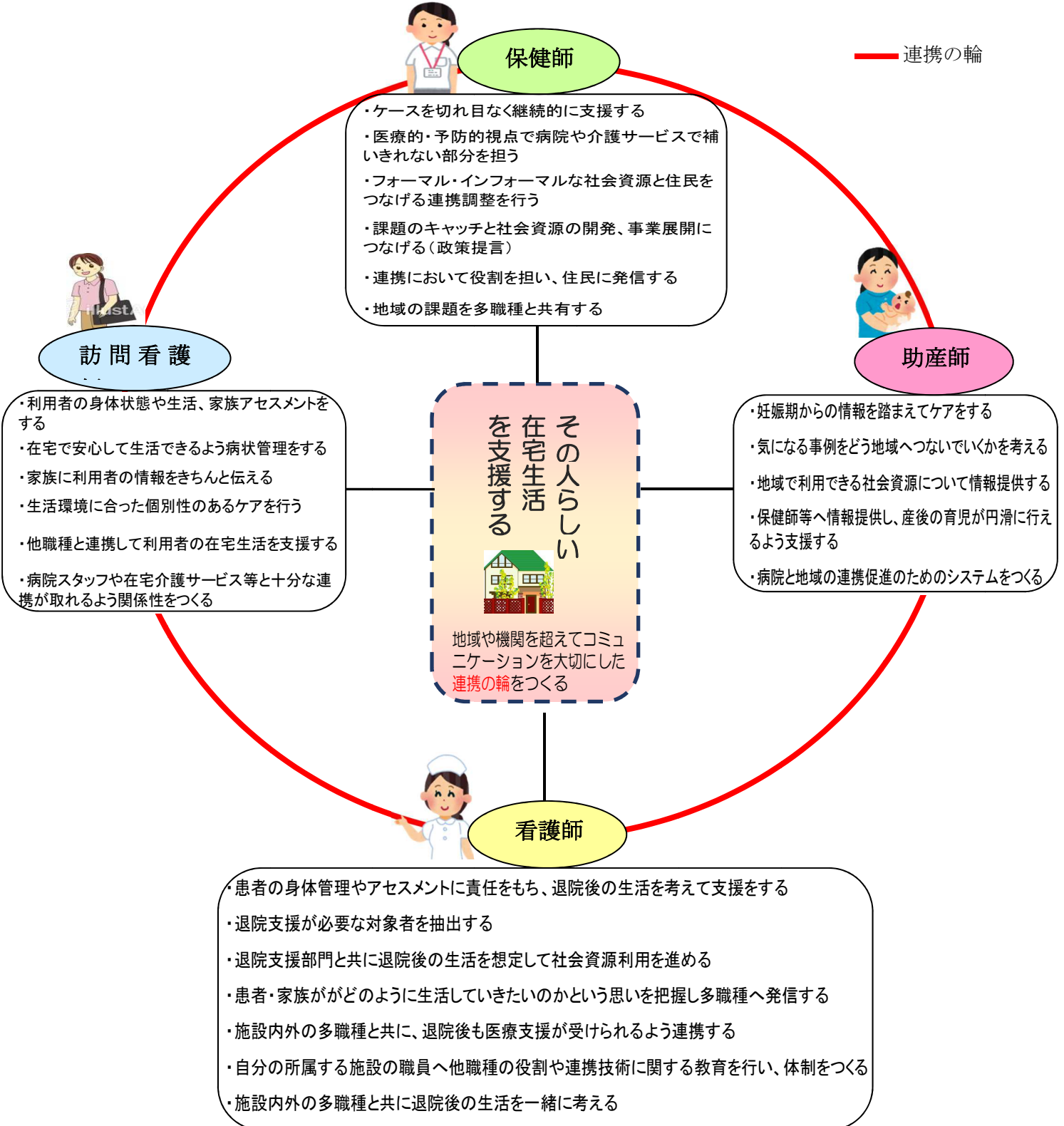
今後、知識を深め各内容を検討していくことが求められる

連携とは、共有化された目的を持つ複数の人及び機関（非専門職も含む）が、単独では解決できない課題に対して、主体的に協力関係を構築して目的達成に向けて取り組む相互関係の過程

野中猛、多職種連携の技術（アート） 地域生活支援のための理論と実践、p228、中央法規、2014

point! 連携のために看護職はこんなことができます

医療と介護、保健・福祉領域で働く看護職は、相互に連携しながら「その人らしい在宅生活を支援する」ことを念頭に“生活を支えるケア・つなげるケア”ができます。





各職種に期待されていること

保健師に期待すること	看護師に期待すること
・妊娠期から育児に関する情報提供をする	・本人・家族の意向や望む生き方の把握する
・退院時の患者に関するアセスメントを対応やケアに活用する	・本人・家族が望む最期を実現するための意思決定支援に関わる
・家族関係の把握、調整すること	・患者の普段の生活の把握する
・住民一人一人が退院後生活できるよう支援する	・患者での生活状況を保健師・ケアマネジャー・MSWIに伝える
・個々のケースで看看連携を行う	・家族関係の把握をする
・ケースの必要に応じて疾患管理や生活援助にも関わる	・自立支援を目指したその人らしい援助をする
・住民一人一人を長期に地域で支える	・退院後の生活をイメージして入院中の支援を行う
・地域と医療との間を埋めること	・入院中の患者情報を地域の多職種へ情報提供すること
・地域資源調整、各機関の調整の中心となる	・地域での療養を見据えた課題を文書に記録する
・地域のつながりを強化した子育て支援をする	・訪問看護師との退院前訪問できる
・行政の立場を活かして健康に関する施策へつなげる	・退院する患者に関して早めに保健師と情報共有する
・住民からの相談の機会を健康支援へつなげる	・在宅療養支援に関して在宅ケアサービス提供者と共に考える
・病院や施設の看護職と相談しながらケースへの支援を行う	・退院後の注意点を在宅ケアサービス提供者へ伝える
・担当保健師の存在を周知する	・外来との連携をする
	・地域の情報を知る
助産師に期待すること	訪問看護師に期待すること
・ハイリスク状態にある妊産婦を早期発見し支援する	・本人と家族の希望を踏まえて関わること
・母親・新生児へ専門的支援を行う	・在宅での医療・治療の中心としての役割を担う
・安心・安全な出産・育児を支援すること	・必要な医療へつなげる
・産前産後のケアの充実	・在宅での生活の視点を大切にされた看護をする
・出産に関する情報や自宅訪問で得た情報をより良い育児へ繋げる	・生活上の困りごとに他職種と共に対応する
・地域で母性知識に関する教育を行う	・地域を含めた対象理解をする
・心身のアセスメントや育児技術に関するアセスメントを地域の多職種へつなげる	・家族の役割を調整する
・助産師と看護師が共に支援を行う	・母子、小児の訪問看護を行う
・母親、子供の不安を受け止める	・退院時の生活や心身のアセスメントを行う
・どの職種とも患者の情報を提供し、連携ができること	・利用者の病状やADLの情報を家族や病院へ情報提供する
・助産師が地域で活躍すること	・看護師の専門分野を活かした看看連携をする
・いのちの大切さといった道徳教育を行う	・在宅と病院・施設を繋ぐ連携の要になる
・自らの専門性を認識し、専門外の部分を支援する職種と連携できる	・ケアマネジャーと地域包括支援センターと連携する
介護職に期待すること	・訪問看護で得た情報を多職種と活用する
・利用者の日常生活を支援する	・利用者の全人的な対象理解を基盤として看護上の課題に対応する
・個別性に応じた介護方法を多職種へ情報提供する	・介護士へ知識や技術を伝える
・デイやショートステイでの様子を家族に伝える	・訪問看護が周知されるよう広報する
・終末期にある患者へのケアができる	
・本人・家族が困っている部分を意識して関わる	

《市町村の問い合わせ窓口》

- 障害・難病の場合：各市町村役場 介護・保健・福祉担当課
各福祉保健所健康障害課
- 高齢者の場合：各市町村包括支援センター
高知市の場合：地域高齢者支援センター
- 母子の場合：各市町村役場保健・福祉担当課又は母子保健担当
各市町村子育て世代包括支援センター



事例検討会の様子



【問い合わせ・連絡先】

公益社団法人高知県看護協会

電話：088-844-0678 F A X：088-844-0053